

あおぞら医療相談&レファレンスの試み

ー 医学図書館員も地域へー

荒木亜紀子

川崎市立井田病院図書室

医療情報サービス；地域；病院図書室；患者図書室；レファレンス

【はじめに】

公共図書館は現在、ビジネス支援サービスや医療情報サービスなど地域の課題解決型のサービスを行う館が多くなり、ますます地域と密接につながりつつあります。一方われわれ病院図書館員や医学図書館員はどうでしょうか。機関所属ということもあって、まだまだ地域どころか「図書室」「図書館」に留まり、そこからアウトリーチしていないのが現状ではないでしょうか。発表者はまず病院内にある「医学図書室」から出て、患者図書とボランティアの取りまとめを担当しました。そして、そこから一歩地域に飛び出し、医療者とボランティアとともに「あおぞら医療相談&レファレンス」を実施しました。その事例を報告いたします。

【病院の概要とほっとサロンいだ】

川崎市立井田病院では、南北に長い川崎市のちょうど中間地点にあります。病床数は383床と中規模、主に慢性疾患を中心に診療しています。病院の特徴としましては地域がん診療連携拠点病院、臨床研修指定病院が挙げられます。また、緩和ケア病棟を有するとともに在宅医療を積極的に行っており、包括的なケアを目指しています。

2012年5月の新棟オープン後、2013年1月から7階の展望サロンを患者様用サロン兼患者図書「ほっとサロンいだ」としてスタートしました。スタッフは医師、がん専門看護師、がん相談員、医学図書室司書、ボランティアで構成しています。患者様のための様々なプログラムを毎月行っています。

【地域商店街とのコラボ】

2013年12月と2014年6月に地元商店街で行われるもちつき大会にて、ほっとサロンいだが出張医療相談を実施しました。ブースで医師、看護師が無料で医療相談を受ける傍ら、医学図書室司書が相談内容に沿った図書の紹介やレファレンスを行いました。地域の病前・病中・病後の患者様に病院やほっとサロンいだを知ってもらうだけでなく、病院に医療情報について相談できる「司書」がいるということを知ってもらういい機会となりました。

【今後の展望】

今まで私たち病院図書室司書は、院内での図書室の充実というものを重視していました。しかし、今後は地域にいる病院にかかる前の患者様や退院した後、社会に戻る患者様にも継続して情報提供していかねばならないと考えます。そのサービスの要に病院図書室司書が積極的に関わっていきたいと強く感じます。